

戦後 75 年を迎えて

問 教育委員会事務局人権・同和教育係 ☎ 0943-32-0093

第二次世界大戦

1939年、ドイツによるポーランド侵攻をきっかけに「第二次世界大戦」が始まりました。多くの国を巻き込んだこの大戦は、全世界で何千万人もの犠牲者を生み出しています。

1945年8月6日に広島、9日に長崎へ原子爆弾が投下され、日本が降伏し終戦を迎えました。

戦後の日本

この敗戦は、日本社会にさまざまな変化をもたらしました。工場が破壊され、多くの労働者が死傷したことにより、工業生産は戦前前の3分の1にまで減少。モノや食料も不足し、「マッチは家庭で1日4本」「せつけんは一人で年1個」という状態でした。

住宅事情はさらに深刻で、全国の住宅の15パーセントが空襲により焼失。同居や間借りをして生活する人も多くいました。

戦争を繰り返さないために

第二次世界大戦の悲惨な体験を踏まえ、日本国憲法は三大原則の一つとして「平和主

義」をうたっています。前文に「政府の行為によつて再び戦争の惨禍さんかが起ることのないようにすることを決意し」と示されているように、二度と戦争をしないという国民の意志が込められています。

終戦を迎えて75年経った今、実際に戦争を体験した人が少なくなってきました。戦後生まれの世代が多数を占める今日、戦争の記憶が風化してしまうのではないかと危惧されています。

二度と戦争を起こさないために、私たちは戦争体験者の話や学校の授業、テレビ、本などで過去を知り、戦争の悲惨さを伝えていくことが大切です。一人ひとりが日々の生活の中で、命の大切さを考え、守ることが平和な世界をつくることにつながります。

8月6日(木) 8:15

8月9日(日) 11:02

原爆死没者の冥福と世界平和を祈念し、家庭や職場などで1分間の黙とうを捧げましょう。

町内小中学生が書いた作文の優秀作品をまとめた「平成31年度 あげぼの」から1つご紹介します。(学年は当時のもの)

戦争と人権

広川中学校 1年 梅本明加

私たちは今、こうして平和な日本で安心して暮らしていますが、第二次世界大戦中の出来事をひいおばあちゃんに聞いてゾッとしました。ひいおばあちゃんの話によると、田んぼの草むしりをしているとB29が飛んできたので、急いで川の中に飛び込んで、端っこの方の草陰に隠れたそうです。うまく身をひそめられたので、撃たれることはなかったけれど、すごく怖い思いをしたそうです。今の日本では、このような怖い経験をする事はないですが、戦争中の日本の人々は生きた心地のしない日々を送っていたということを知り、戦争は何の罪もない人々を、こんなにも苦しめたということに恐ろしさを感じました。

テレビなどの報道では、戦争やテロなどのニュースを目にすることはありますが、ひいおばあちゃん

の実体験を聞いて、より身近なものとして考えさせられました。戦争とは人々の命をもつて奪う行為です。同じ人間でありながら、冷静な判断ができないということはおかしいと思います。

しかし、色々な考えをもつのが人間です。だから意見がぶつかり合うことはあると思いますが、相手のことを知り、相手の立場に立って考え、話し合いで問題を解決することが大切だと思います。ひいおばあちゃんの実体験から学んだことを今後の生活に生かし、この考えが少しでも多くの人に伝わってほしいと思います。そして、皆が幸せに安心して暮らせる世の中にしたいです。お互いが尊重し合える未来をつくれたらいいなと思いました。

島津・大友・龍造寺三氏の覇権争いと九州静謐への道のり（その3）

豊臣秀吉、九州への出陣を決意

島津・龍造寺氏が大坂へ使者を派遣し、大友義鎮も自ら大阪へ赴き秀吉に面会したことは、6月号で紹介しました。

三氏の中で大友義鎮だけは厚遇を受けています。黒田官兵衛ら先遣部隊の派遣など、秀吉の対応はおおむね大友氏の意をくんだものです。一方、島津氏に最後通達ともいえる書面を反故にされ、面目丸つぶれとなった秀吉の怒りは、容易に想像できません。

島津氏討伐のため、秀吉自らが九州への出陣を決意したのは、天正15年（1587年）1月のこと。2月5日にまず羽柴秀長（秀吉の弟）を出発させ、同17日豊後に上陸します。秀長の軍勢は、中国勢を合わせて合計9万騎（『筑後将士軍談』）。豊後路をとり日向へ進みます。

3月1日には秀吉も京都を出発。同29日に豊前小倉に上陸し、翌日には馬嶽城（現行橋市・京都郡みやこ町境にあつた）へ入ります。秋月氏（島津方）配下の諸城を攻め落としながら軍を進め、4月4日に秋月（現朝倉市秋月）

に着陣して、諸將を謁見しました。『筑後将士軍談』によると、その軍勢は25万人とあり、秀吉の力を遺憾なく示す派手でおびただしいものであつたといわれています。

同10日、高良山吉見岳城に着陣（『九州御動座記』）して、一夜の陣を張ります。翌11日には肥後国の南関へと軍を進めますが、この進軍の途中で藤田・一條・知徳を通り、前津・北長田（現筑後市）へと達し、矢部川を渡ります。一條区内に太閤道と呼ばれる道が残っているのはこのためです。

平成3年の圃場整備までは、一條八幡宮から藤田区の藤原橋にかけて、田んぼの中に幅1間（1・8メートル）の道が通じていました。現在は八幡宮前から石人山の切通しへ通じる部分に、その痕跡を留めます。

『肥後國誌』には、南関の藪力岳城主大津山家稜が、秀吉を広川まで迎えに出たという「南関記聞」の逸話が載っています。

その後は4月16日隈本城（現熊本市）、5月3



圃場整備以前の太閤道。背後の集落は藤田（一條区）。

日川内（現川内市）に至り、泰平寺に本営を設けます。同8日には剃髪した島津義久が秀吉の本営で和議を請い、秀吉もこれを受け入れ、九州平定の目的が遂げられました。6月5日には、願正寺住持の了勝が下妻・上妻郡境で凱旋途中の秀吉を出迎え、褒美に本願寺教如上人の絵像を頂戴した（『寺社并古城古墳等書付』）という話も残っています。

秀吉は同7日に筑前宮崎宮に帰着し、一連の軍事行動を終えます。新しい国割りを行い、ここに九州静謐が成就しました。

広川町古墳資料館だより

新型コロナウイルスの影響により、4月8日から5月31日まで休館していた当館。今年1月から7月の来館者数は約1,500人と、昨年同月比で7割減となっています。3密となる大きな行事はできないため、今後は政府などの方針に照らしつつ、文化財や展示品のオンラインでの紹介など、今できる普及活動を企画していきます。

石人山古墳に立つ武装石人、復元した石人山古墳の石棺、直弧文イベントで制作した作品、古墳出土の銀象嵌塚頭や銅鏡など、一度も当館を見学したことのない皆さまが楽しめるものがたくさんあります。8月以降は、これらの情報を積極的に提供していく予定です。

総合クラブひろかわ

自彊術・ヨガ教室を再開！

新型コロナウイルス感染症の影響で、5月まで休止していた「自彊術教室」「リラクゼーション・ヨガ教室」を、6月から再

開しています。人数制限や窓・ドアの開放（エアコン使用）を行い、密集・密接・密閉を避けています。「スポーツ吹矢教室」

の再開は、現在検討中です。体験や見学を希望する人は、総合クラブひろかわ事務局へご連絡ください。

	自彊術教室	ヨガ教室
日時	第2・4(金) 19:30～21:00	第2・3・4(火) 13:30～15:00
場所	町民交流センター 「いこっと」	古墳公園資料館
参加費 保険代 含む	月額 1,500 円	[2回コース] 月額 1,500 円 [3回コース] 月額 2,250 円



自彊術



リラクゼーション・ヨガ

問総合クラブひろかわ事務局（教育委員会事務局生涯学習係内） ☎ 0943-32-0093

広川文芸

広川短歌会



母の日にかあさんの子で良かったとメール届きて生きる励みに 姫野 洋子

天空の茶畑に行くオルレ道 遠くにかすむ多良も背振も 蓮子 住雄

見上ぐれば薄墨色の雲厚く梅雨のさなかの雲は動かし 野中 勝美

雨降らぬ日曜の朝つぎつぎと早苗田ふえる窓からの景色は 高橋 和子

輪郭を夜に溶かしてくちなしはひと日の思ひしづかに放つ 青木佳代子

男気のないわが家の畑には西瓜の花は雄花ばかりなり 原 千恵子

梅雨晴れ間朝日のなかに霧たちて低き雲間に消えてゆきたり 中川原勝代

天までも届くがに伸ぶクレーンの資材吊り上げ工事はつづく 結束 節子

ゆふやけは銀杏並木を這ふて縫ふパッチワークの妙技を見せて 美座 時朗

ひと抱へのデルフィニウムが運びくる真青なる風一陣の風 山下 整子

コロナ禍の日本をほつこりさせる人藤井七段目が離せない 鹿田 恵

姿よし色よし風味よし休校の孫と夫の合作野菜 姫野 深幸